

グローバル化時代における日中語彙交流
ー中国語に見られる日本語由来の新語を中心に

北京外国語大学 譙 燕

中国と日本における文化交流は長い歴史を持っている。古代では多くの漢語は中国語から日本語に伝わったが、近現代では日本語から中国語に逆輸入された語も少なくない。特に今日の世界においては、科学技術の進歩に伴って、社会、経済、文化などのグローバル化が急速に進展している。こうした変化は外国の新しい事物や概念を表す言葉を借用する可能性を著しく高めていると考えられる。そのため、中国では近隣である日本の映画、ドラマ、アニメをインターネットやテレビなどで見るのがさらに容易になり、日本語の言葉も徐々に借用されてきたのである。

本発表は日本語由来の新語がいつ中国の新聞に現れたのか、その意味・用法に異同があるのかを明らかにすることを目的とする。ここでいう日本語由来の新語は 1980 年代以降、中国語に現れた日本語からの借用語のことである。検討方法としては、まず、中国語の新聞コーパス『読秀知識庫』から日本語由来の新語を抽出した後、その意味を辞書などで確認する。そして、コーパスから用例を抽出し、検討を加える。

日本語由来の新語は「御宅族」、「熟女」、「封殺」など日本で創造された語と、「写真」、「人気」、「料理」など古代中国語の語形を利用して新しい意味を与えた語の 2 種類が見られる。これらの新語の中国の新聞における初出年を見ると次のようである。例えば、封殺(1982)、写真(1985)、過労死(1989)、完勝(1990)、人気(1995)、熟女(2005)、達人(2007)、干物女(2007)、御宅(2010)、萌(2011)など。

日本語由来の新語の意味・用法を考えると、(1) 日本語の意味・用法とほぼ同じもの(完勝、大賞、苦手、美肌など)、(2) 日本語の意味・用法と相違のあるもの(御宅、熟女、封殺など)が見られる。(1)の例としては、例えば、「完勝」は日中両言語とも「完全な勝利」を表し、体育だけでなく、政治、経済、文化などの領域でも用いられている。(2)の例としては、例えば、日本語の「おたく」と比べて、中国語の「御宅」は「部屋にいて、外に出たくない」という意味が強調されており、ゲームやアニメなどに関係していない例のほうが多い。また、中国語の「御宅」から「宅男」、「宅女」、「宅人」などの派生語及び動詞用法、形容詞用法などの派生用法も現れた。そのほか、喚情的評価の面で日本語と違うものも見られる。例えば、日本語の「熟女」については『明治・大正・昭和の新語・流行語辞典』(2003)では、「熟年」をもじって、二〇代後半から四〇代前半の女性をいう。この年齢の女性タレントがヌードになって話題を呼んだ」と解釈されており、プラスのでも、マイナスのでもない評価のようであるが、中国語の「熟女」はほめ言葉としての性格が非常に強いと思われる。中国語の「熟女」はよく仕事ができるばかりでなく、優雅で、魅力のある女性であるとされている。中国語の「熟女」と共起する言葉も女性に対する最高のほめ言葉がほとんどである。例えば、「多金熟女、高貴熟女、干練熟女、嬌媚熟女、絶色熟女、美艷熟女、美麗熟女、俏麗熟女、温婉熟女、優雅熟女、知性熟女」などあり、いわば、日本語の「熟女」と比べて、中国語の「熟女」のもつプラス的评价のイメージが強調されている。また、「熟女」から「輕熟女」、「熟男」、「輕熟男」などいくつかの派生語も作られた

が、どれもプラスの評価の強いものである。例えば、「軽熟女」は 2005 年に台湾資生堂によって作られた語であるが、「年齢 25 歳から 35 歳ぐらい、独立的経済能力を持つ台湾の都市女性を指す」と説明されている。

1980 年代以降、中国語では日本語から多くの語が借用されているが、その原因を考えると、次の 3 点が挙げられる。

1. 日本との文化交流に伴って、日本の新しい物事や概念などが多く紹介され、それらを表す言葉も同時に借用されてくる。
2. 日本特有の物事を表すのに日本語を借用して表現するほうが一層正確に伝えるばかりでなく、「日本的」なイメージも同時に感じ取られる。
3. 若者たちが日本の文化（アニメや漫画など）への憧れで、わざと日本語を用いて表現することが多い。その多用によって次第に日本語由来の漢語が定着するようになった。

グローバル化時代においては外国との交流が多くなったため、このような借用語も中国語に伝わってきたが、最初はインターネットやテレビ、新聞などのメディアで使われているが、徐々に日常用語となってきたものも少なくない。本発表では主に新聞によって調査したものをまとめたが、他の資料による考察を今後の課題としたい。